

# 養殖力キのへい死の状況（1）（各県からの聞き取り）

○カキ養殖を行っている各県に状況を確認。瀬戸内海の各県において、多いところで7～9割のへい死が発生している。

○推測される要因は、高水温は共通しているほか、高塩分、エサ不足、貧酸素等が挙げられている。

※平時のへい死割合は一般に3～5割

凡例：①へい死の程度、②推測される要因、③令和5年の生産量（生産量割合）

## 1.広島県 (西部海域)

- ①3～9割
- ②長期の高水温・貧酸素
- ③89,192トン (59.8%)  
※県全体

## 2.広島県 (中部海域)

- ①7～9割
- ②長期の高水温・高塩分
- ③89,192トン (59.8%)  
※県全体

## 3.広島県 (東部海域)

- ①5～9割
- ②長期の高水温・高塩分
- ③89,192トン (59.8%)  
※県全体

## 4.岡山県

- ①地区により異なる  
1年カキで1～7割  
2年カキで7～8割
- ②高水温、高塩分、  
降水量の減少
- ③11,557トン (7.8%)

## 6.山口県

- ①地区により異なるが  
おおよそ3～6割
- ②高水温、エサ不足、  
降水量の減少
- ③25トン (0.1%未満)

## 7.愛媛県（今治市）

- ①ほぼ全量
- ②高水温、貧酸素
- ③565トン (0.4%)  
※県全体

## 8.愛媛県（愛南町）

- ①10月、11月導入の中間貝が  
導入時点で3～9割へい死
- ②中間貝の生産不良
- ③565トン (0.4%)  
※県全体

## 5.兵庫県

- ①地区により異なるが  
おおよそ7～9割
- ②高水温、エサ不足
- ③8,407トン (5.6%)

## 11.大阪府

- ①7～9割
- ②ヘテロカブサの増加
- ③11トン (0.1%未満)

## 10.徳島県（瀬戸内海側）

- ①地区により異なるが  
3～9割程度
- ②高水温・エサ不足など
- ③96トン (0.1%)  
※県全体

## 9.香川県

- ①地区により異なるが  
おおよそ5～9割
- ②高水温など
- ③794トン (0.5%)

※2025年12月19日現在

# 養殖力キのへい死の状況（2）（各県からの聞き取り）

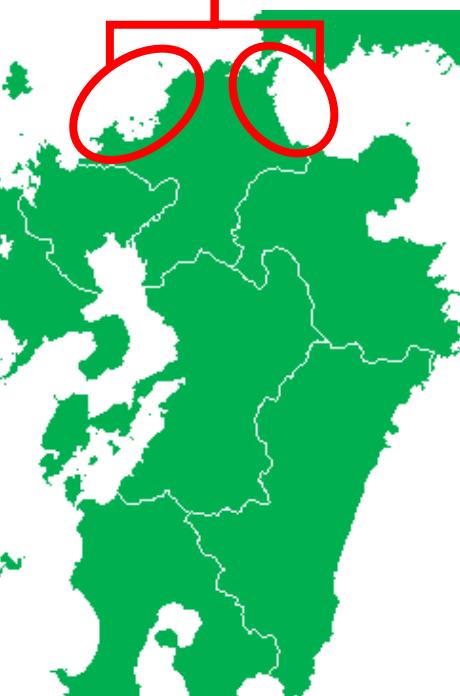
- 瀬戸内海以外の地区について、宮城県の一部の地区でも例年以上のへい死発生が見られた。
- 福岡県、三重県、岩手県では、特段のへい死は確認されなかった。

※平時のへい死割合は一般に3～5割

凡例：①へい死の程度、②推測される要因、③令和5年の生産量（生産量割合）

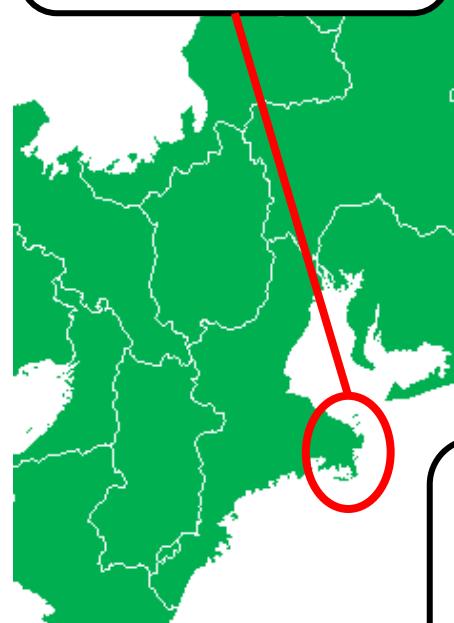
## 12.福岡県

- ①例年並み
- ②—
- ③1,482トン(1.0%)



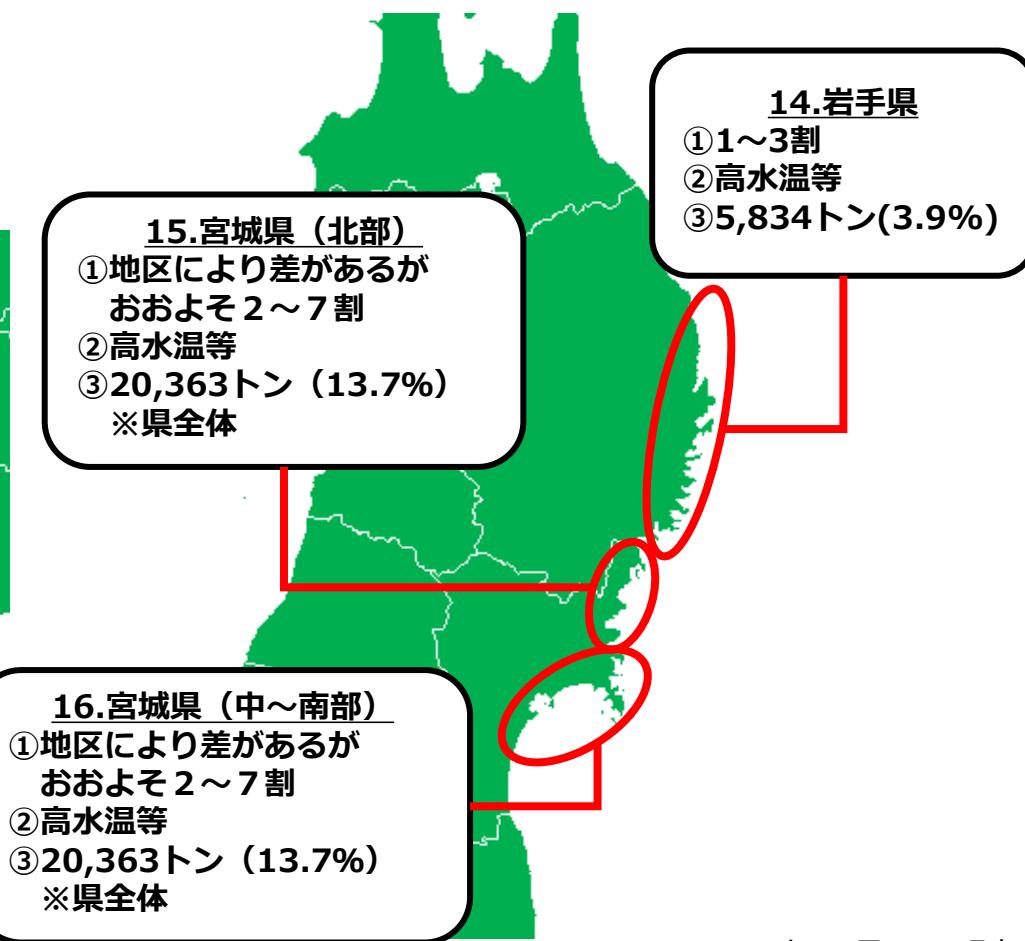
## 13.三重県

- ①例年並み
- ②—
- ③1,903トン (1.3%)



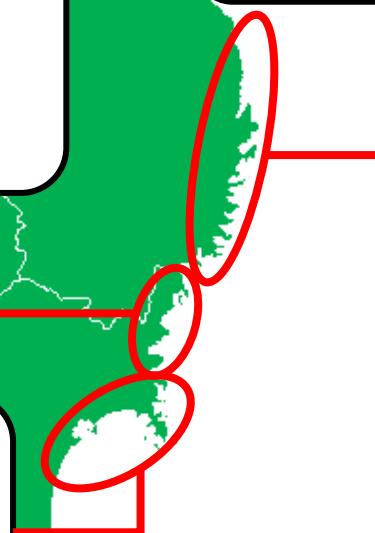
## 15.宮城県（北部）

- ①地区により差があるが  
おおよそ2～7割
- ②高水温等
- ③20,363トン (13.7%)  
※県全体



## 14.岩手県

- ①1～3割
- ②高水温等
- ③5,834トン(3.9%)



## 16.宮城県（中～南部）

- ①地区により差があるが  
おおよそ2～7割
- ②高水温等
- ③20,363トン (13.7%)  
※県全体

※2025年12月19日現在

# 各県からの聞き取り情報まとめ（1）

No.	地区	へい死の程度	身入り	海洋状況	推測される要因
1	広島県 (西部海域)	3~9割	例年並みか、小さい	高水温、貧酸素水塊・青潮の発生	長期の高水温 貧酸素
2	広島県 (中部海域)	7~9割	身入りが悪い、 やわらかい	高水温、高塩分	長期の高水温・高塩分による 生理障害
3	広島県 (東部海域)	5~9割	身入りが悪い	高水温、高塩分	長期の高水温・高塩分による 生理障害
4	岡山県	地区により異なる。 1年カキで1~7割 2年カキで7~8割	ほとんどの地域で 例年より小さい	6月下旬から9月中旬まで 前年より2℃高く推移。 9月中旬以降は昨年並み。	高水温 高塩分 降水量の減少
5	兵庫県	地区により異なるが、 およそ7~9割	例年よりかなり小さい	夏季の高水温期間が長かった。 夏季のクロロフィル量が少なかった。	高水温、エサ不足
6	山口県	地区により異なるが およそ3~6割	例年並みか、小さい	夏場の高水温の継続	高水温、エサ不足、 降水量の減少
7	愛媛県 (今治市)	ほぼ全量	例年よりかなり小さい	高水温、貧酸素	高水温、貧酸素
8	愛媛県 (愛南町)	10月、11月導入の中間貝が導入時点で3~9割へい死	生残した貝の身入りは概ね良い	水温が例年よりやや高かった。	中間貝の品質
9	香川県 (漁業者等からの聞き取り)	地区により異なるが およそ5~9割	例年より小さい	高水温、エサ不足	高水温、エサ不足、貧酸素
10	徳島県 (瀬戸内海側)	地区により異なるが 3~9割程度	例年より小さい	鳴門市では8月下旬から9月中旬まで平均より水温が高く、底層の酸素濃度も低かった。	高水温、貧酸素、エサ不足
11	大阪府	7~9割	例年並みか、小さい	高水温、 ヘテロカプサの増加	高水温、 ヘテロカプサの増加

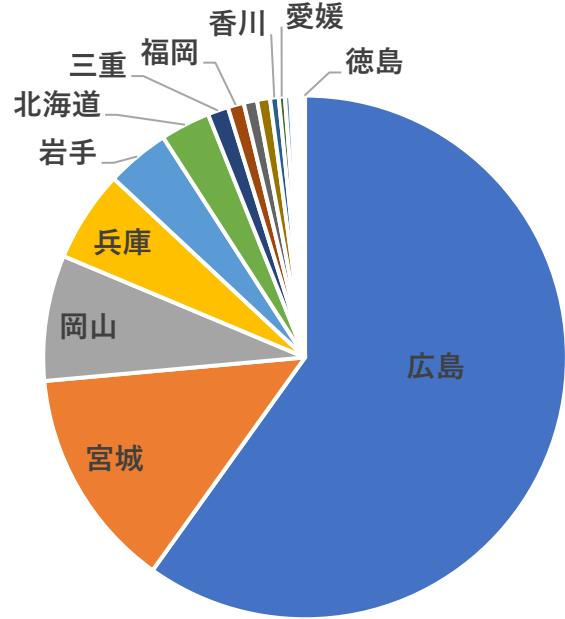
※2025年12月19日現在

# 各県からの聞き取り情報まとめ（2）

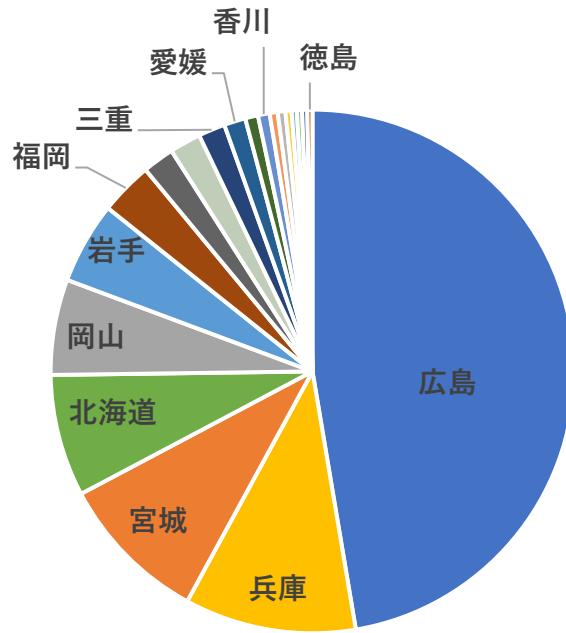
No.	地区	へい死の程度	身入り	海洋状況	推測される要因
12	福岡県	例年並み (3~5割)	例年並みか、やや小さい	夏季の水温が例年よりも高く推移。	—
13	三重県	例年並み (3~5割)	例年並み	8月中旬から9月下旬まで、前年より2~3℃低めに推移。 10月以降も前年より低め。	—
14	岩手県	例年並み (1~3割)	例年並みか、やや小さい	夏季の水温が例年よりも高く推移した。	高水温
15	宮城県 (北部)	地区により差があるが、おおよそ2~7割	身入りが悪い地域が多い	夏季の水温が例年よりも高く推移した。	高水温等
16	宮城県 (中部、南部)	地区により差があるが、おおよそ2~7割	地区により異なるが概ね例年並み		

# 【参考】養殖力キの主な生産地

産地別生産量割合（2023年）



産地別生産額割合（2023年）



	生産量(トン)	生産量割合
広島	89,192	59.8%
宮城	20,363	13.7%
岡山	11,557	7.8%
兵庫	8,407	5.6%
岩手	5,834	3.9%
北海道	4,581	3.1%
三重	1,903	1.3%
福岡	1,482	1.0%
長崎	1,229	0.8%
石川	1,192	0.8%
香川	794	0.5%
愛媛	565	0.4%
新潟	499	0.3%
静岡	343	0.2%
佐賀	255	0.2%
京都	216	0.1%
島根	213	0.1%
大分	112	0.1%
熊本	97	0.1%
徳島	96	0.1%
その他	134	0.1%

	生産額(百万円)	生産額割合
広島	19,322	47.3%
兵庫	4,322	10.6%
宮城	3,801	9.3%
北海道	3,072	7.5%
岡山	2,408	5.9%
岩手	2,058	5.0%
福岡	1,334	3.3%
長崎	797	1.9%
静岡	788	1.9%
三重	676	1.7%
愛媛	542	1.3%
石川	324	0.8%
香川	293	0.7%
佐賀	202	0.5%
島根	193	0.5%
新潟	154	0.4%
京都	132	0.3%
熊本	131	0.3%
大分	129	0.3%
徳島	86	0.2%
その他	129	0.3%